

想いをかたち

決まった設計案をもとに、実際に建築するための設計を行います。横浜にいる学生たちは、設計を担う市やコンペの審査委員を務めた建築士との打ち合わせにリモートで参加し、デザインや仕上げなど設計に必要な要素を自ら提案し、設計に携わりました。敷地条件や法律、コストなど、ハードルはいくつもありませんでしたが、設計案のデザインをなるべく変えないように実現したいというみんなの想いで1つずつこれを解決。そしてついに10月、設計が完



リモートで打ち合わせ中



部材の取り付け方を検討

成しました。ここまでにかかった時間は約4カ月。その後、12月から工事が始まり、完成はもうそこまで来ています。
できあがる待合所は、光が差し込み、風が通り抜ける、木漏れ日のような憩える空間。時には地元の人が寄り集まる、時には旅人をあたたかく迎え入れる、人と人が交差するネットワークの中継点になるでしょう。みなさん、赤い電車に乗って、ぜひ西浦駅に来てくださいね。

interview



最優秀賞 横浜国立大学大学院
飯島あゆみ 大月菜子 野中美奈

大学の課題以外にも建築の創作に取り組みたいと思っていたところ、このコンペの存在を知り、応募しました。自分たちの作品が形として残せるし、駅の待合所を設計できる機会はめったにないので、最優秀賞に選ばれてとてもうれしかったです。

蒲郡にはコンペをきっかけに初めて行きました。実地調査のために西浦を訪れた時、日差しが

あたたかくて、風も心地よくて。桜も満開で四季を感じました。だから、「光と風」という豊富な自然を感じられるコンセプトにしました。でも、それではありきたりだから、訪れた人がそれを五感で感じられるような設計を目指しました。実地調査では、まちの雰囲気を知るために歩き回りました。その中で大切にすることは、地元の人との会話です。どんな人が住んでいるか、どんな暮らし方をしているかなど、地元の人に直接話を聞くことで、西浦というまちについて情報収集しました。余談ですが、実地調査の際に、ガン封じ寺に寄って、おばあちゃんにお守りを買ったのはいい思い出です。

あの場所には光がきれいに入ってくるので、それを最大限に生かせる構造になっています。光の入り具合など見る時間帯によって雰囲気が変わるので、いろんな時間に来てほしいです。そして、たくさんの人に利用してもらって、みんなに愛され、西浦の次の風景の一部になると嬉しいです。